

夢窓幼稚園通信第37号

2025年 9月 30日

静かで穏やかな お月さまの夜は、私達をほっとさせてくれます。

今日の一日が、月の光に包まれて、身体にしみ入るように溶け込んでいきます。秋の虫の声の響きの中で行われる。このささやかな特別の秋の日々のインシエーションは、“明日の自分を準備する”ための オープニングセレモニーなのかもしれません。

夜と昼・・・それぞれの体験はどちらも大切な営みなのでしょうが、現代を生きる私達にとって、直接の社会的影響の少ないように見える「夜」が、むしろ遂にとても大切な時間である気がしています。

私ではなく私とつながる物の価値が高く、外から絶えず情報が流れ込んでくる・・・時代の中で、「私」である由縁・根拠を実感することはなかなか難しく、だからこそ 静かに純粋に内なる自分に向かう一瞬は、何より大切でもあるのだと思います。

私達らは 今「ミカエルの季節」を迎えました。
大天使ミカエルは 天上の龍を退治し、暗闇を克服し、困難をのり越え 平和を導く 時代霊です。

渾沌とした、良心を喪失した国家の正義の名の下に行われている争いや牽制が 普通のことである時代・・・

『モモ』や『ネバー・エンディング・ストーリー』を著したミヒャエル・エンデの葬儀を務めた司祭イーネ・ヨーハンソン女史は、こんな詩を書いています。

あなたの目は 私を見る
あなたの口は 私を呼ぶ
あなたの足は 私を導く
あなたの腕は 私を守る
あなたの思考は 私を澄んだものにす
あなたの勇気は 私を強くする
あなたの心は 私を愛する

あなたによって、ミカエル、龍を制する者よ
私達人間は 平和をもたらす者を見いだす

月に向かいながら 私自身の役割とミカエルを、秋の訪りとして響かせたいと思います。

そして 新しい秋の朝の おいしい空気を今日も吸い込んで、それぞれの一日を始められることを願っています。

園長 升光 泰雄